

2024年度

事業報告書

公益財団法人 東京都医学総合研究所

目 次

I. 研究事業	1
1. プロジェクト研究	1
2. 研究センター	2
3. 特別研究	3
4. 産学連携等研究	4
(1) 受託研究	
(2) 受託事業	
(3) 共同研究	
5. 病院等連携研究	7
6. 研究に関する専門的支援	7
II. 普及事業	8
1. 研究所の役割・研究成果の発信	8
2. 医学研究・生命科学研究への関心の涵養	9
3. 研究人材等の育成	9
4. 地域との交流	10
5. 研究成果の実用化	11

I 研究事業

1 プロジェクト研究

プロジェクト研究は、研究課題、研究目標を明確にし、5年間の期間を定めて研究成果の都民還元を目指した研究を効果的かつ効率的に推進するものであり、外部委員による評価を受けながら実施している。

2020年度からスタートした第4期プロジェクトでは、都民のニーズに応えるべく、東京都医学総合研究所が取り組むべき12課題をもとに、21のプロジェクト研究を開始した。2021年度に「がん免疫」「体内時計」の2つのプロジェクトが新たに加わった一方で、「ユビキチン」「うつ病」の2つのプロジェクト、2022年度は「蛋白質代謝」「脳卒中ルネサンス」の2つのプロジェクト、2023年度は「ウイルス感染」が終了した。2024年度については以下の18のプロジェクト研究を推進した。

No.	プロジェクト名（略称）	研 究 テ ー マ
1	ゲノム動態 <Genome Dynamics>	ゲノムの継承・維持とその障害によるがんなどの疾患発生の分子機構
2	難聴 <Deafness>	難聴の遺伝的要因と発症機構の解明
3	カルパイン <Calpain>	カルパインによる生体機能維持の分子機構
5	幹細胞 <Stem Cell>	幹細胞を利用した新しいがん免疫療法の探索と創薬
7	認知症 <Dementia Research>	認知症の分子機構
8	学習記憶 <Learning and Memory>	学習記憶回路の動作原理と破綻機序の解明
9	脳機能再建 <Neural Prosthesis>	機能回復機序に基づいた脳脊髄機能再建法の実践
10	こどもの脳 <Developmental Neuroimmunology>	こどもの脳のためのトランスレーショナル研究
12	脳神経回路形成 <Developmental Neuroscience>	脳・神経回路の構築原理とその形成異常のメカニズム
13	統合失調症 <Schizophrenia Research>	統合失調症の原因・病態究明と予防法の開発
15	睡眠 <Sleep Disorders>	睡眠障害の病因・病態究明と治療法の開発

No.	プロジェクト名（略称）	研 究 テ ー マ
16	依存性物質 <Addictive Substance>	依存性物質の作用機序解明とその医療応用
17	感染制御 <Viral Infectious Diseases>	インフルエンザ・デング熱及び肝疾患に対する予防と治療
19	視覚病態 <Visual Research>	網膜・視神経の保護と再生による視覚障害の治療法の開発
20	糖尿病性神経障害 <Diabetic Neuropathy>	糖尿病に伴う神経変性の機構解明と治療戦略
21	再生医療 <Regenerative Medicine>	iPS細胞技術とゲノム編集技術の融合による遺伝性疾患の治療法開発
22	がん免疫 <Cancer Immunology>	がん免疫の網羅的解析およびその遺伝子治療への応用
23	体内時計 <Circadian Clock>	概日時計と寿命・老化タイマー

※No. 22「がん免疫」、No. 23「体内時計」が、2021年度からプロジェクト研究を開始した。

※No. 4「ユビキチン」、No. 14「うつ病」は2021年度をもって、No. 6「蛋白質代謝」、No. 11「脳卒中ルネサンス」は2022年度をもって、No. 18「ウイルス感染」は2023年度をもって研究を終了したため、欠番とする。

2 研究センター

自らが持つ課題の研究を行いながら、研究所内外に対する専門的な支援や都の保健福祉施策に直接貢献する組織として、研究及び支援活動等を推進した。

（1）ゲノム医学研究

約30億の塩基対により構成されているヒトゲノムの機能、とりわけ遺伝子の発現に着目した研究を展開した。

また、都立病院等と連携し、疾患の原因となる分子機構を解明するとともに、各プロジェクトに対し、ゲノムデータの解析等の支援を行った。

（2）社会健康医学研究

大規模コホートによる思春期の心身の健康・発達を支える要因の解明や、疫学的な見地によるうつ病研究、難病ケア看護に関する研究を展開した。

また、東京都と連携し、行政ニーズの高い社会健康医学研究を推進した。

3 特別研究：4 課題

東京都の重点施策の推進のため、短期的・集中的に特別研究を実施し、研究成果の都民還元を目指した。

(1) 肝硬変治療薬開発の推進

治療薬候補である低分子化合物PRI-724をヒト肝細胞モデルマウス等に投与し、肝臓の機能が回復するメカニズムを解明するための基礎研究を推進した。

研 究 課 題
肝硬変治療薬の開発を促進する肝機能回復メカニズムの解明

(2) 人工神経接続装置開発の推進

脊髄損傷患者や脳梗塞患者の身体機能の回復を目指し、独自に開発した「人工神経接続」を用いて、疾患病態に合わせた神経接続方法と刺激方法を開発するための臨床研究を推進した。

研 究 課 題
人工神経接続装置の開発に向けた臨床研究

(3) 新型コロナウイルス等予防ワクチン開発研究の推進

これまでに確立したワクチン開発技術を用いて、新型コロナウイルスだけではなく、今後新たなコロナウイルスが発生した場合にも即座に対応可能なワクチンの開発を行い、臨床試験につなげることを目指した。

研 究 課 題
新型コロナウイルス等予防ワクチン開発研究の推進

(4) 認知症発症メカニズム解明と新規治療法等の研究の推進

近年、著しく増加している認知症の発症メカニズムを解明するとともに、新規治療法・予防法の確立に向けた研究を推進した。

研 究 課 題
認知症発症メカニズム解明と新規治療法・予防法の開発に向けた研究の推進

4 産学連携等研究

外部機関からの委託により研究を行う受託研究や受託事業、民間企業と共同して研究を行う共同研究を実施するなど、外部資金の確保に努めた。

（1）受託研究：30課題

東京都や国立研究開発法人日本医療研究開発機構などから受託して研究を実施した。

研 究 課 題	委 託 者
在宅難病患者訪問看護師等養成研修事業	東京都保健医療局
認知症ケアプログラム推進事業	東京都福祉局
予防的支援推進とうきょうモデル事業	
肝硬変の生命予後を改善する革新的抗線維化薬の研究開発	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ヒトの時計老化年齢を評価する血液バイオマーカーの探索とその応用	
解析対象ASD/SCZ家系の選定と臨床情報の収集	
cccDNA排除剤開発及び機序の解析	
EV71感染モデルマウスを用いた神経病原性決定因子の解析	
生体における小胞体関連分解の解析とレクチンの機能解析	
難聴抵抗性遺伝子を用いた革新的医薬品の開発	
サブプレート神経活動のダイナミズムによる脳神経回路の発達機構	
ユビキチン依存的なプロテアソーム相分離によるプロテオスタシス制御	

研究事業（産学連携等研究）

研 究 課 題	委 託 者
生体を用いた腫瘍抗原特異的ヒトT細胞受容体スクリーニング系の開発と利用	<p style="text-align: center;">国立研究開発法人 日本医療研究開発機構</p>
エムボックスを含むオルソボックス属ウイルス感染症に対する非増殖型ワクシニアウイルスワクチンの開発に資する研究	
RNA標的医薬創出に資する、疾患RNA分子完全長一次構造に関するデータ基盤の構築	
変異導入・変異修復iPS細胞株の高効率作製と提供	
非アルツハイマー型認知症の新規治療薬についての研究	
新しいHBVワクチン抗原及び経鼻免疫法の開発と検証	
脳卒中後の機能回復機序に基づいた潜在能力促進法の有効性検証	
クライオ電子顕微鏡を用いた神経変性疾患タンパク質の構造解析基盤の創出	
癌に対する新規抗体モダリティの開発	
感染模倣型RNAワクチンに関する研究開発	
神経変性の原因となるタンパク質微粒子の形成と伝播機構	<p style="text-align: center;">国立研究開発法人 科学技術振興機構</p>
様々な時間軸の「時」を決定する分子メカニズムの解明	
脳生理機能を支える糖の脳内動態の解明	
シスエレメント同定パイプラインの構築と適用	

研究事業（産学連携等研究）

研 究 課 題	委 託 者
①中枢における情動－自律神経連関の神経回路解明とその制御法の開発、②遠心性神経による臓器機能調節の実態解明とニューロン制御法の開発	国立研究開発法人 科学技術振興機構
人工神経接続による身体と心の制約からの解放	
若者と共に創る孤独予防戦略 コプロダクションによる若者の孤独の理解と予防法の創出	
多階層ストレス疾患の克服	文部科学省

(2) 受託事業：1事業

NPO法人脳の世紀推進会議から受託して、世界脳週間参加事業を実施した。

受 託 内 容 (委 託 者)
世界脳週間参加事業 講演会：「現代の様々な依存 ～やめたくてもやめられない脳のメカニズム～」 (NPO法人 脳の世紀推進会議)

(3) 共同研究

大学や外部の研究機関との共同研究では、お互いの特徴を生かし、より優れた研究成果を求めるとともに、民間企業との共同研究では、研究成果の実用化を目指した。

研究事業（病院等連携研究、研究に関する専門的支援）

5 病院等連携研究

都立病院等との連携研究を推進するとともに、医療関係者を対象とした標本作成技術の提供や脳神経病理データベースの活用支援を行った。

事業	内容	実績等
1 都立病院等連携研究の推進	都立病院等連携研究発表会を開催するなど、都立病院等との連携研究を推進	都立病院等連携研究発表会 5 課題 病院等連携研究推進費支援 5 課題
2 脳神経病理データベースの整備と運営	わが国最大規模の脳神経病理標本をデジタルデータベース化し、脳神経疾患の病理診断の精度向上・標準化を推進	標本作成 25 症例 閲覧アカウント発行 192 件 大学教育用WEBコンテンツ提供 8 大学・9 実習

6 研究に関する専門的支援

実用化につながる研究シーズの発掘や、臨床研究・疫学研究のデザイン、生物統計解析に関する助言及び薬事申請への支援など、研究に関する専門的支援を実施した。

Ⅱ 普及事業

1 研究所の役割・研究成果の発信

研究活動及び研究成果を広く都民等に普及するため、医学研ホームページによる発信や、都医学研ニュースの発行、都民講座の開催等さまざまな活動を実施した。

事業	主な配布先・対象	時期	実績
1 都医学研ニュースの発行	都民、研究者、学生、 病院、保健所、行政機関、 その他関係者・関係機関	年4回	各2,500部 延10,000部
2 パンフレット・リーフレットの発行		2024年4月	2,500部
3 事業年報の発行		2024年10月	600部
4 ホームページの運営		年間	—
5 X（旧ツイッター）による情報発信		随時	—
6 英文冊子の発行	海外の研究者（来客、国際シンポジウム関係者、海外で行われる学会等参加者等）	2025年3月	400部
7 都民講座の開催	都民	年8回	延983人
8 都医学研シンポジウムの開催	研究者、学生、 医療・保健従事者等	2025年3月	22人
9 国際シンポジウムの開催	研究者、学生、 医療・保健従事者等 （海外の研究者との交流）	年3回	延168人
10 都医学研セミナーの開催	研究者、学生、 医療・保健従事者等	年37回	延1,674人

普及事業（医学研究・生命科学研究への関心の涵養、研究人材等の育成）

2 医学研究・生命科学研究への関心の涵養

高校生などを対象とした講演会の開催など、次世代を担う若者等に対して医学研究や生命科学研究に対する関心や理解を高める活動を行った。

事業	主な対象	時期	実績
1 科学技術週間行事への参加	都民	2024年4月	92人
2 世界脳週間参加行事（講演会）（再掲）	高校生	2024年11月	30人
3 高校生のための医学研フォーラムの開催	高校生	—	—
4 SusHi Tech Tokyo 2024への参加	都民	2024年5月	109人

3 研究人材等の育成

研究に携わる優秀な人材の育成や研究活動の活性化を図るため、学生や研究者の受入れを図るほか、夏のセミナー等を開催した。

事業	主な対象	時期	実績
1 夏のセミナーの開催	研究者、学生、医療・保健従事者等	2024年7月～9月	70人
2 外部研究員等の受入れ	大学、研究機関等の研究者、都立病院の医師等	随時	260人
3 研修生の受入れ	大学、研究機関等	随時	80人
大学との連携・研究交流			
4 ① 連携大学院生の受入れ	東京都立大学、東京大学ほか	年間	各大学若干名
② 連携大学院説明会の開催	理学、工学、農学、歯学、薬学、獣医学、保健学、心理学等の学部・学科等に在学する大学生や関連する専門学校生及び大学生等	2024年4月	33人

普及事業（研究人材等の育成、地域との交流）

事業	主な対象	時期	実績
都立病院等との連携・研究交流			
① 都立病院の医師等の受入れ	都立病院の医師等	年間	6名
② 駒込病院 リサーチ・カンファ	都立駒込病院の医師等	年1回	30人
③ 多摩キャンパス 神経カンファレンス	多摩キャンパス ・都立多摩総合医療センター ・都立小児総合医療センター ・都立神経病院 ・都立府中療育センター の医師等	年1回	40人
④ TMEDフォーラム		年1回	72人
⑤ 東京都立病院機構等との連携研究セミナー	都立病院等の医師等	年1回	76人
6 外国人研究者の招へい	海外の大学又は研究機関に所属する外国人研究者	年間	5名

4 地域との交流

研究所を身近に感じてもらうため、サイエンスカフェ等の事業を通して、都民や地域の方々との交流を深めた。

事業	主な対象	時期	実績
1 サイエンスカフェの開催	都民	年3回	80人
2 施設見学	高校生、大学生	随時	290人

5 研究成果の実用化

研究成果の実用化や都民還元を図るため、研究成果の権利化を進めるとともに、産業界等との連携、民間企業へのライセンス等を推進した。

事業	主な対象	時期	実績
1 研究成果の権利化	国内外のバイオ・医療系ベンチャー企業、製薬企業、医療機器関連企業	年間	国内特許出願 4件 国際特許出願 15件
2 国内外の企業との商談会（マッチング）への出展	国内外のバイオ・医療系ベンチャー企業、製薬企業、医療機器関連企業	年間	商談会参加 国内 2件 国外 1件
3 保有知的財産権の紹介（Web掲載）	国内外のバイオ・医療系ベンチャー企業、製薬企業、医療機器関連企業	随時更新	財団ホームページに掲載
4 知的財産のライセンス	国内外のバイオ・医療系ベンチャー企業、製薬企業、医療機器関連企業	年間	特許ライセンス契約 30件 成果有体物ライセンス契約等 51件
5 研究交流フォーラム参加（東京バイオマーカー・イノベーション技術研究組合（略称TOBIRA*）主催）	国内外のバイオ・医療系ベンチャー企業、製薬企業、医療機器関連企業、大学、東京都など	年1回	164人
6 共同研究及び受託研究の推進	国内外のバイオ・医療系ベンチャー企業、製薬企業、医療機器関連企業、大学、東京都など	年間	共同研究契約 75件 受託研究契約 30件（再掲）

*「早期診断・早期治療のためのバイオマーカー活用機器の開発促進」を目的に、「東京バイオマーカー・イノベーション技術研究組合」（略称TOBIRA「とびら」）が、東京都医学総合研究所、東京都健康長寿医療センター、首都大学東京（現 東京都立大学）、東京農工大学等を主な構成メンバーとして、平成23年8月31日に設立（経済産業大臣認可）。平成23年度から「とびら」が主催する研究交流フォーラムに構成員として共同参加。

Ⅲ 附 属 明 細 書

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則（平成19年法務省令第28号）第34条第3項に規定する事業報告の附属明細書として記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しない。